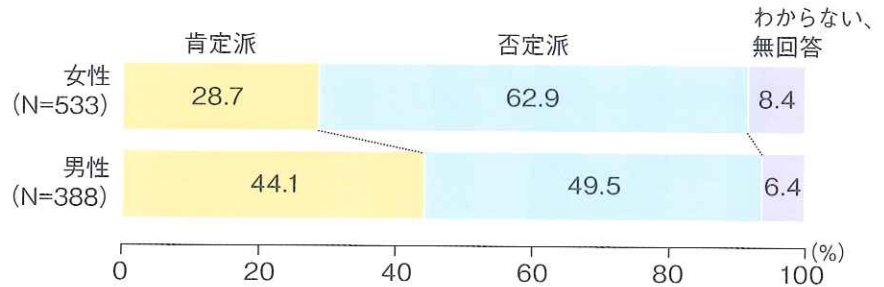


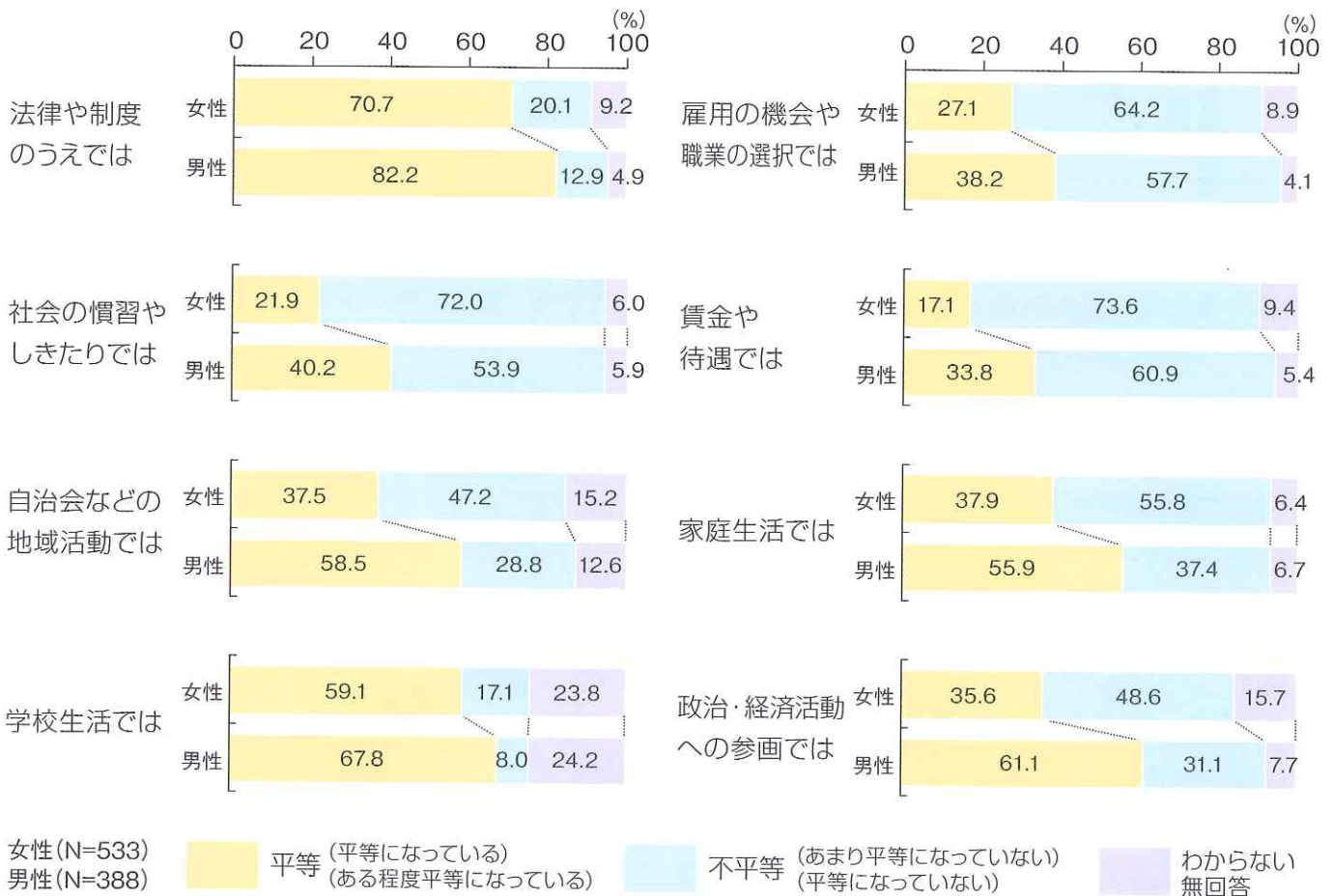
男女平等に関する意識について

◎ 「男は仕事、女は家庭」という考え方についての意見

「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担には男女とも否定派の方が前回調査よりも多くなっています。



◎ 男女の地位の平等観

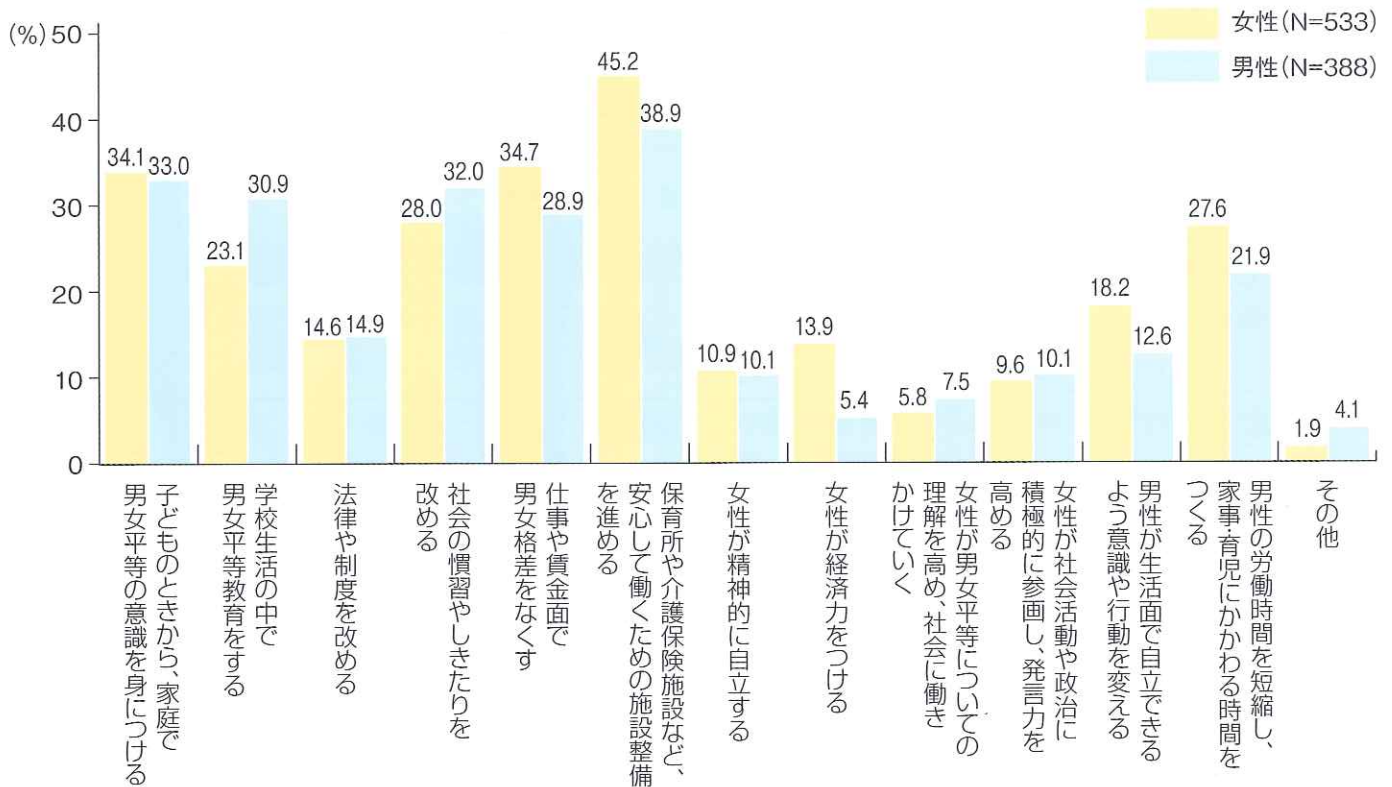


男女の地位の平等観については、平等と感じている割合は「法律や制度のうえ」(女性:70.7%、男性:82.2%)が最も高く、次いで、「学校生活」となっていますが、いずれも女性の方が平等と感じている割合は低く、男女間で認識のズレがみられます。

不平等と感じている割合は「賃金や待遇」、「雇用の機会や職業の選択」などの働く環境や、「社会の慣習やしきたり」で高くなっています。

法律や制度、学校生活など、制度面での整備は進んでいても、働く環境や社会慣習・しきたりなどの実生活の面では、まだまだ男女平等が感じられていない結果となりました。

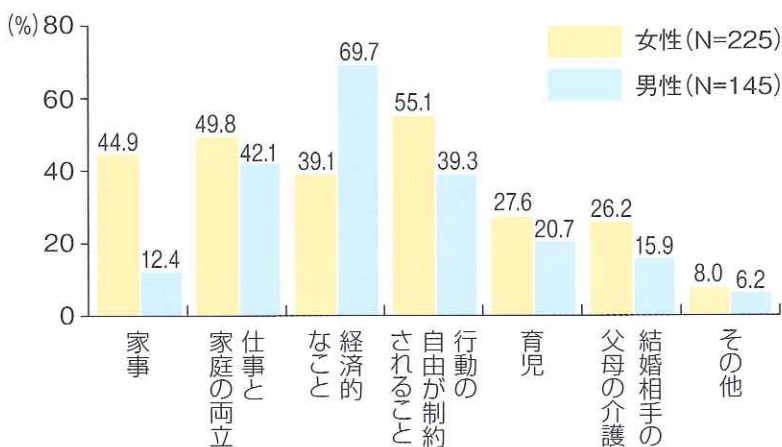
◎ 男女平等を進めていくために必要だと思うこと(複数回答)



男女平等を進めていくために必要だと思うことは、男女ともに「保育所や介護保険施設など、安心して働くための施設整備を進める」(女性：45.2%、男性：38.9%)が最も高くなっています。次いで女性は「仕事や賃金面で男女格差をなくす」、男性は「子どものときから、家庭で男女平等の意識を身につける」の順となっています。仕事と家庭生活の両立ができる環境が望まれています。

結婚や家庭生活について

◎ 結婚について負担に感じること(複数回答)

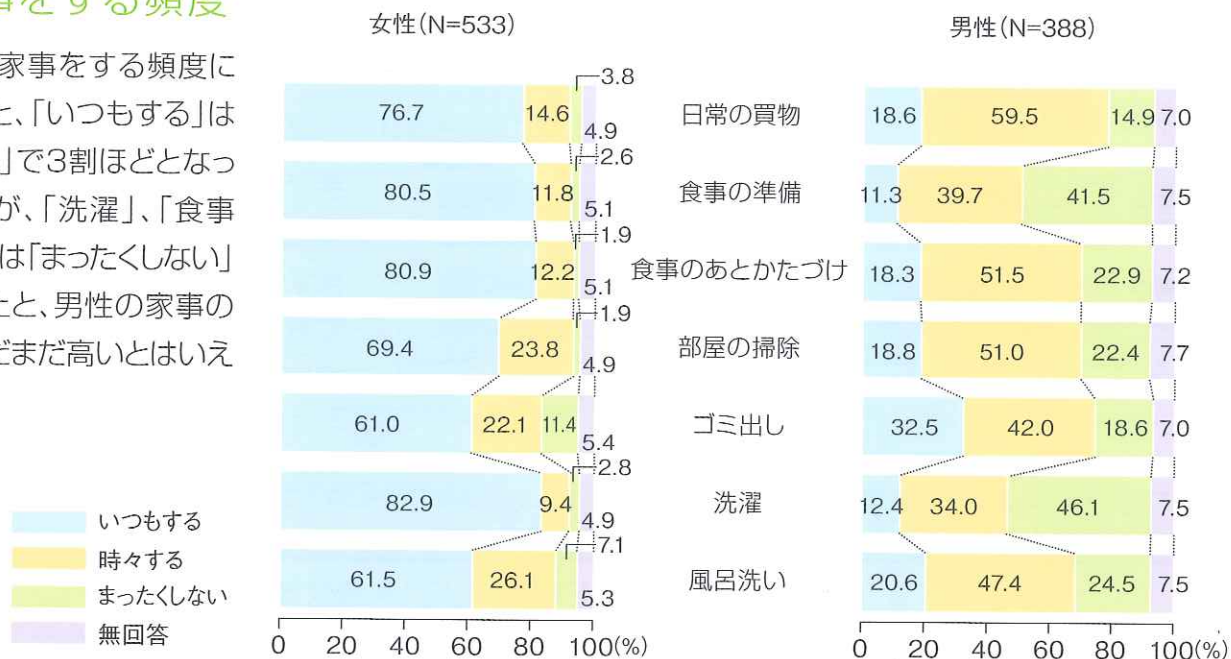


結婚について負担に感じることは、男性では「経済的なこと」、女性では「行動の自由が制約されること」が最も高くなっています。女性は「家事」や「育児」、「結婚相手の父母の介護」などで男性よりも負担に感じる割合は高く、仕事以外の家庭生活の負担が女性に偏っていることがうかがえます。



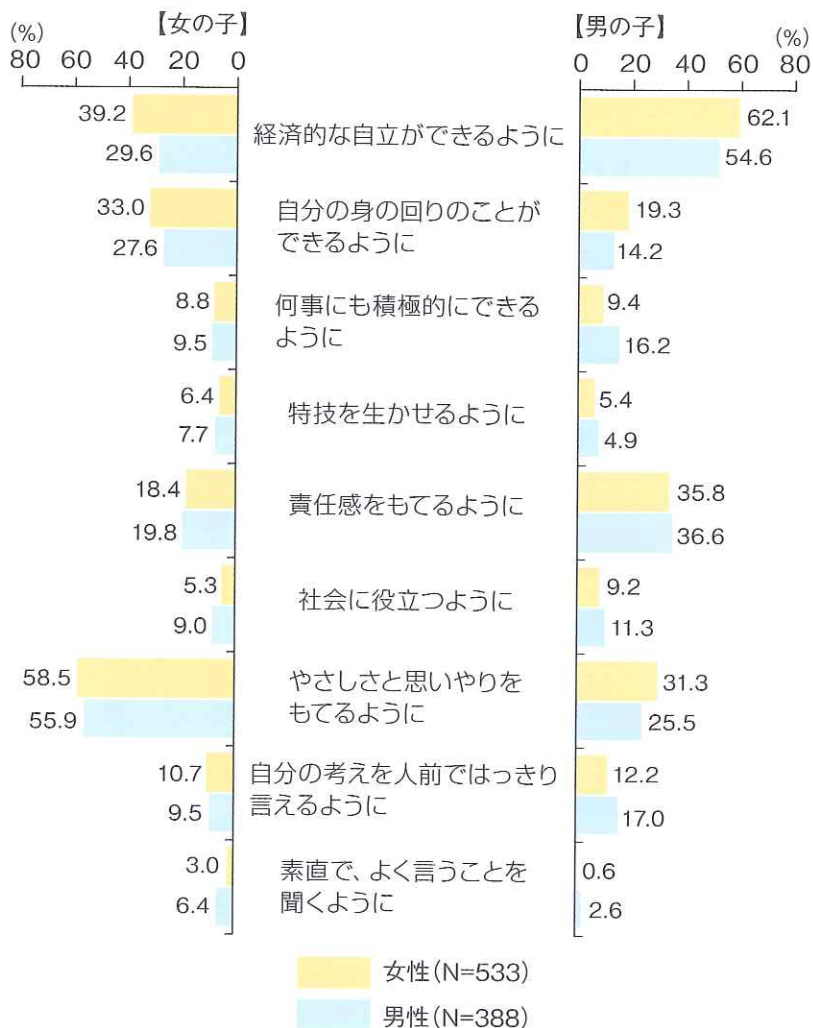
◎ 家事をする頻度

男性の家事をする頻度に注目すると、「いつもする」は「ゴミ出し」で3割ほどとなっていますが、「洗濯」、「食事の準備」では「まったくしない」が4割以上と、男性の家事の頻度はまだまだ高いとはいえません。



子育てについて

◎ 希望する子どもの育ち方(複数回答)

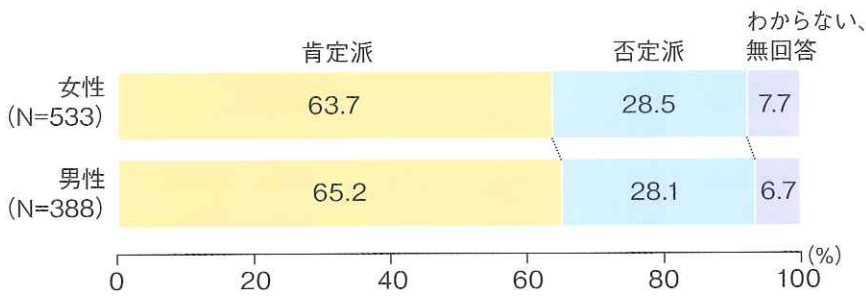


希望する子どもの育ち方は、女の子の場合は男女ともに「やさしさと思いやりをもてるように」が、男の子の場合は、「経済的な自立ができるように」が最も高く、女の子は女らしく、男の子は男らしくという育ち方が希望の大半となっています。

しかし、女性は女の子に対しても「経済的な自立ができるように」、男の子に対しても「やさしさと思いやりをもてるように」という人が3~4割と、女性の方が男女区別なく育てる意識が高いことがうかがえます。



◎ 子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだ という考え方についての意見

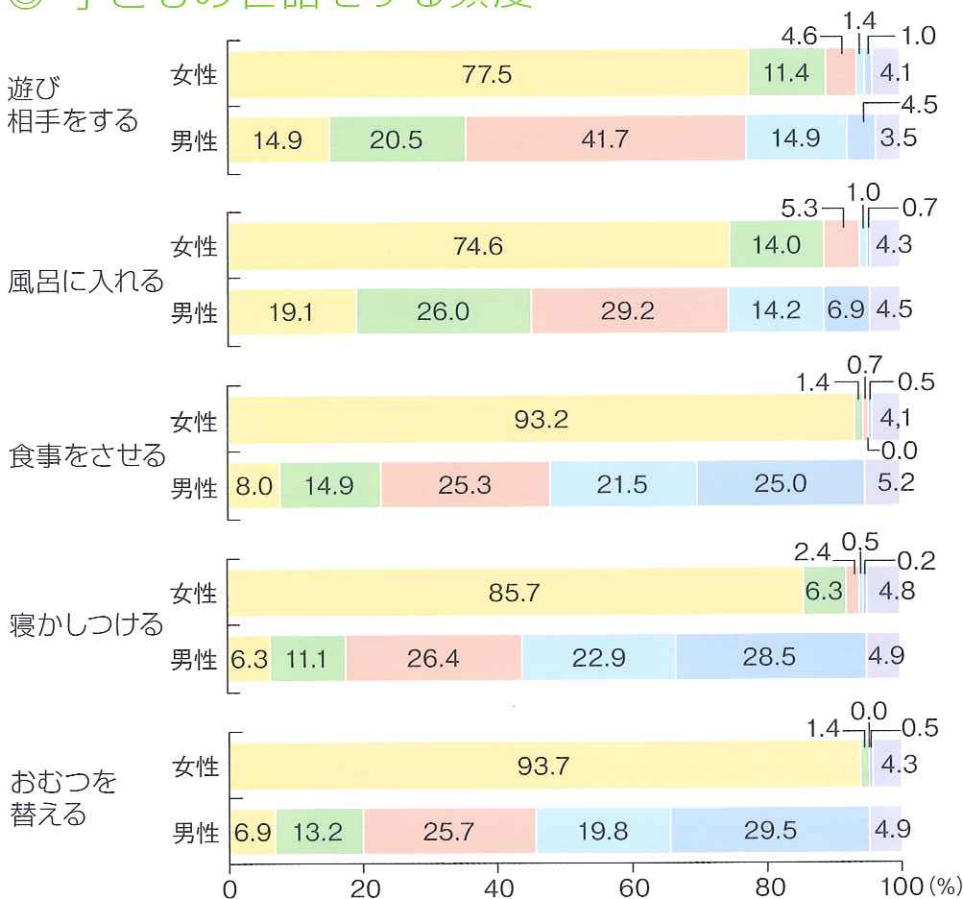


子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだという考え方の肯定派が男女とも6割を占めていますが、育児に参加する父親も増えており、子育てに夫婦で関わっている家庭が増えています。

今話題の「イクメン」ご存知ですか？

「イクメン」とは、「育児に積極的に関わり楽しむお父さん」を意味する新しい言葉です。これまでは、育児のために女性が育児休暇を取得したり、退職したりすることが一般的でしたが、最近では、男性も育児休暇を取って積極的に育児に参加する「イクメン」が増えています。しかしながら、「周囲に迷惑をかける」「出世に響く」「過去に前例がない」…などの理由から、育児に参加したいけれど、育児休暇を取らない男性がまだまだ多いのが実状です。男性がこれまでの仕事中心の働き方を改め、子育てや家事に参加することは、女性の就労継続につながるばかりか、子育ての負担が分散されることで、子どもを持つことへの抵抗感も低減されます。仕事も子育てもどちらも充実させたい「イクメン」を、社会全体で応援したいものです。

◎ 子どもの世話をする頻度



子どもの世話をする頻度には、大きな男女差がみられ、育児は女性の仕事という現状がうかがえます。

しかし、男性も「風呂に入れる」、「遊び相手をする」では毎日・毎回する人が1割台と、少ないながらも子育てに協力しています。

女性(N=414)
男性(N=288)

- 毎日・毎回する(した)
- 週3~4回する(した)
- 週1~2回する(した)
- 月1~2回する(した)
- まったくしない(しなかった)
- 無回答